

すまいるたうん



発行元
東京新聞
南千住東口専売店
Tel.5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
Tel.090-2657-0300

シトラスリボン運動を知って 優しい社会に

「ただいま」「おかえり」と言いあえるまちに」

シトラスリボンプロジェクトはコロナ禍で生まれた新型コロナウイルス感染者や医療事業者への差別や偏見を耳にした松山大学の教員らが立ち上げた愛媛発の市民運動です。愛媛特産の柑橘にちなみ、シトラス色（緑、オレンジ等の柑橘の色）のリボンや専用ロゴを身につけて、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動を広めています。

リボンやロゴで表現する三つの輪は地域・家庭・職場（学校）です。思いやりの心を持つことを呼び掛けています。感染した方が治癒後に地域や職場（学校）に「ただいま」と戻れるように、また周りの方が笑顔で「おかえり」と言い合える環境なら、安心して検査を受けることができ、ひいては感染拡大を防ぐことにつながります。



この活動は愛媛だけではなく、福岡、栃木、長野など各地に広がり、県や市町村など行政や、航空会社や地域の各企業が賛同して和が広がっています。授業の一環としてリボンを作り、リボンを着用したあいさつ運動を実施して

いる小学校や中学校も出てきました。「笑顔の暮らしを」

連日、新型コロナウイルス感染者が増えています。いくら気をつけていても、いつ感染するか分かりません。今や、どこにいても何をしていても、いつだってだれだって感染のリスクはゼロではありません。人は味方と敵を分ける心理が働き、自分にとって大切な味方を「内集団」、それ以外の敵を「外集団」と区別してしまっています。感染者が「出た」「出ない」ということで不安から、差別が偏見が生まれています。感染拡大予防も経済の再生も大事です。それと同じくらい、感染者の方やその身近な方が、回復後に笑顔の暮らしを取り戻せることも大事です。

荒川区では多世代食堂のタヴェルナがシトラスリボンプロジェクトに賛同し活動を始めました。お話を伺った日にエッセンシャルワーカーとして働く縁戚者が職場で感染者が出て濃厚接触者となったと知らせを受けました。当たり前だった生活が一変します。本人は元より同居の家族も検査結果が出るまで自宅待機となり落着かない不安な時間を過ごしました。皆さんがシトラスリボンプロジェクトを知って感染確認されたその後、辛い体験をされた方に寄り添い受け止める優しさが生まれると素敵ですね。そんな想いを共有していただける方に、次にご紹介

する方法で、荒川区でもこの活動を広げていきたいと思います。

- 1 シトラスカラー（柑橘をイメージした色）のリボン・紐などを準備します。リボンの色や材質はあなたの創意工夫で。
- 2 その材料で「地域・家庭・職場（or 学校）など」を示す「三つの輪」をつくらば、「シトラスリボン」のできあがり。結び方は「飾り結び」「総角結び」などと呼ばれるものを参考に。
- 3 この「シトラスリボン」を身につけたり、おうちの玄関や郵便受けなどに掲示してみたりしてください。「元気ですか？」「また会いましょう」「うー！」の言葉とともに贈りあうのもよいかもしれません。
- 4 リボンの画像をSNSで発信することも、このプロジェクトが広まるきっかけになります。シトラスリボンの作り方はYouTubeで見ることができます。

